

令和元年度 岡山県立勝間田高等学校 学校評価書

岡山県立勝間田高等学校

校長 中野 功

1. 自己評価について

(1) 経営目標「進路意識の育成による学習意欲の向上」について

「ユニバーサルデザインを意識した授業改善の取組」をテーマにして公開授業および研究会(6月18日)を実施した。3年間の取組の成果として、学校自己評価アンケート(生徒272名回答)は次のような変化があった。

「学校は安心して生活ができる場」 63.8%(H29)→72.2%(H30)→74.2%(R1)

「学校は落ち着いて授業が受けられる場」 56.7%(H29)→65.6%(H30)→62.8%(R1)

「わかりやすい授業が多い」 61.1%(H29)→66.6%(H30)→61.1%(R1)

「勝間田高校に入学して充実感がある」 64.9%(H29)→63.8%(H30)→67.7%(R1)

こうした取組を通して、教員の生徒に対する関わり方が変容し、その結果としてきめ細かく丁寧な対応ができる教員が増え、学校全体に落ち着きが見られるようになり生徒の充実感に繋がってきていると感じる。

(2) 経営目標「社会性を備えた心豊かな教育の推進」について

- 問題行動による特別指導件数は76件(前年78件)と大きな変化はないが、内訳として「その他の行為」に分類される非常識行為(屋上にでる、文化祭展示物破損等)や交通に関する問題行動などの校則違反がほとんどで、暴力行為などの重大な問題行動はなかった。

「生徒(自分)は、社会のルールやマナーが守れている」

生徒：82.3% 保護者：91.6% 教職員：41.7%

「先生は、社会のルール・マナー、学校で守るべきことについて指導している」

生徒：76.1% 保護者：85.8% 教職員：89.4%

- 「勝間田スタンダード」による指導が定着してきている。本年度からたび重なる軽微な違反(服装、頭髮、スマホ使用等)には違反回数に応じたレベル指導を行っている。年度後半には指導が定着し、違反件数が減少するなど効果が見られている。
- 保健室利用者数は550件(前年比-126件)と減少傾向にある。生徒の健康管理については、虫歯受診率が65.1%(前年比+38.4)と大きく向上している。また、高度肥満生徒への指導や朝食摂取の指導などの取組を推進することができた。

(3) 経営目標「地域に学び地域に還す教育の推進」について

- キャリア教育の取組として、総合学科1年生の工場見学、「ジョブフェア in 勝間田高校」、短中期インターンシップ等の事業を実施した。特に「ジョブフェア in 勝間田高校」は50社の企業に来校いただき、ブース形式で1・2年生対象の企業説明会を実施し、生徒が主体的に企業担当者から話を聞く様子が伺えた。
- 県指定学校経営予算重点枠事業「勝間田タウンキャンパス」においては、前述の「ジョブフェア in 勝間田高校」をはじめ、1年生の「産業社会と人間」において地域人材を活用した社会人講師による地域の文化や産業についての講演を実施した。また、オープンファクトリ

一や勝央町文化祭への参加や、地域の農産物を材料にした栗麴や葡萄水まんじゅうの研究など、地域の特色を活かした教育活動に取り組むことができた。また、こうした取組を通して、地元への就職率は87.3%と高い数字となっている。

(4) その他

- ・昨年度から特別な配慮の必要な生徒に対して通級指導を行っている。本年度から対象学年を1～2年生までに広げている。学期ごとに保護者会を開催したり、外部講師による教員研修を行ったりするなど担当者を中心とした取組が機能的に実施された。

2. 学校関係者評価

(1) 学校評議員会

【開催日】第1回（6月19日）第2回（11月16日）、第3回（2月27日）

【委員】

若林 美佐子（美作大学 准教授 介護福祉）

永禮 淳一（勝間田高等学校PTA代表）

安東 章治（元美作市議会議員）

喜井 啓（勝英農業普及指導センター総括副参事）

植月 誠彦（勝央町役場総務部総括参事）

- a) 魅力ある学校であり学校のPRにも協力したい。同じ農業系の高校でも定員を超えている学校がある。「勝間田高校だから」という特色をアピールすれば良いのではないか。土木系の技術者は人材不足である。そういったニーズにも対応していけばどうかとの助言があった。
- b) 現在評価がBの項目も来年度にはAになるのではと感じる部分が多くある。人間力を高め、教育力の高さを感じた。これからも応援している。高大連携も進めていけば良いのではとの助言があった。
- c) 地域の農業者のイベントにも積極的に参加している。これまでの取組を継続し、地域の若手農業者との連携を進めてはどうか。行政的な支援もうまく活用しながら勝間田らしいカラーを出していけばとの助言があった。
- d) 少子化の影響で高校同士での生徒の取り合いになっている。近い将来に地域での学校再編の可能性も高い。人の流れてくる魅力のある勝間田高校にしてほしい。勉強も大切だがもっと部活動に力を入れてはどうかとの助言があった。

(2) 学校推進協議会

【開催日】令和2年1月23日

【委員】

会長 水嶋 淳治（勝央町町長）

顧問 田野 孝明（岡山県議会議員）

顧問 中島 章（勝央町教育長）

顧問 光井 一恵（勝央中学校長）他 計28名

【議題・報告】

（報告）「エコカーレースへの挑戦」総合学科自動車系列3年

（報告）「ドラゴンフルーツジャムの開発」食品科学科2年

（意見交換）「勝間田高校の現状と課題について」

（意見交換）「コミュニティスクールについて」

冒頭に会長の水嶋町長より、「最近の子供たちの考えも変わってきており、以前の進学一

辺倒から地域に残り活躍したと考える子も増えてきている。勝間田高校ではいろいろな地域連携に取り組んでおり、その中で生徒たちの成長を感じている。伝統ある勝間田高校が地域活性の起爆剤となってほしい。学校の魅力を地域が知り、多くの生徒が入学し巣立っていく、そんな学校になってほしい。」という御挨拶があった。続いて、協議題に従い意見交換を行った。地域連携、学校の魅力発信の方策、学校間連携による活性化、近隣高との役割分担の在り方等について、勝央町教育関係者、地元代表者から多方面にわたる意見が寄せられた。

3. 学校自己評価アンケート（別紙参照）

生徒アンケート20項目の内、プラス評価の上位3項目は次のとおりである。「自分は社会のルールやマナーが守れている」82.3%、「先生は社会のルールやマナー、学校で守ることについて指導している」76.1%、「学校は進路決定に向けて充実した指導をしてくれる」75.0%

保護者アンケートでは、「子供を安心して学校へ行かせることができる」97.3%、「子供は、社会のルールやマナーが守れている」91.6%、「先生は、社会のルールやマナーをしっかりと指導している」85.8%が上位3項目、教員アンケートでは、「進路情報の提供や相談などきめ細かく指導している」97.9%、「先生は生徒の相談・質問に誠実に対応できている」95.8%、「HPなどを通じて地域への情報発信に努めている」95.8%が上位であった。

4. まとめ

本校は、本年度から学科再編により7コースの総合学科として新しいスタートを切った。新しい教育課程による専門教育のスタイルを模索する1年間であった。「勝間田ウンキャンパス」として、地域を学びのフィールドにとらえ、「地域で学び」「地域で育て」「地域へ還す」教育をこれまで以上に推進してきた。ユニバーサルデザインの視点に立つ授業改善の取組が3年目を迎え、ソーシャルスキル教育が教員に定着してきた。また、「勝間田スタンダード」によるねばり強い生徒指導により、生徒の学校生活に全体的に落ち着きが見られた。また、これらの成果は進路指導の面にも現れており、就職の一次試験での合格率は82.8%（前年比+7.4%）と向上している。自己評価アンケートでも、生徒が「社会のルールやマナーが守れている」「先生は社会のルールやマナーについて指導している」「進路指導に向けて充実した指導をしてくれる」などの項目を肯定的に回答するようになってきたことである。

これまでの取組により「学習指導」「生徒指導」「進路指導」などの面で少しずつ成果が現れ始めていると感じているが、依存として生徒募集については大きな課題を抱えている。次年度へ向けて学科再編による新しい学校（コース）の教育体制を確立し、これまでの教育資産を活かしながら魅力ある専門教育を推進していく必要がある。また、地域と連携をさらに深め、地域と共に、地域で活躍する人材の育成に取り組んでいく必要がある。